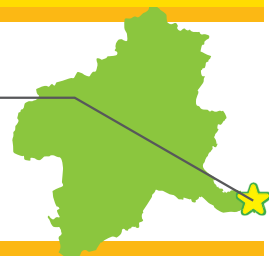


水郷めぐりの船頭として、舟上で活躍

揚舟 谷田川めぐり

板倉町



卓越した竿さばきで狭い水路を抜けていく

●活動内容

かつて揚舟は、軒下に吊り下げておき、水害時に交通手段として使われていた。陸に揚げられた舟ということで、揚舟と呼ばれている。現在は、水郷を巡る観光に利用されている。

平成13年の「第16回国民文化祭ぐんま2001」において、板倉町では、郷土の水文化を中心とした「水の文化フェスティバル」を開催。その際実施した「揚舟体験」が大変好評だったため、翌年から観光の一環として5月1日から6日及び、5～6月と9～10月の土・日・祝日の期間限定で実施している。

一本の竹竿で木製の舟を操る船頭は、町が募集。船頭を務める岡部康雄さん(78)もその一人。草木が生い茂る「群馬の水郷公園」の中を、卓越した竿さばきで舟を操っていく。現在7名の船頭が活躍しているが、揚舟の操船のほか、来客の受付や乗船場周辺の美化作業なども船頭の仕事である。

●工夫している点・特長

揚舟体験では、「群馬の水郷公園」内の谷田川で、ヤナギ山周遊コース約2キロを40分かけてゆっくりと巡る。一人でも多くのお客さまに、水郷の風情を感じてもらえるように、心をこめた接客を心がけている。

岡部さんは、舟の由来や野鳥の話、水辺の植物の話を

織り交ぜながら、時には黙って舟が水面を滑る音を観光客に聴いてもらう。そのタイミングを臨機応変に判断している。そこが腕の見せどころでもある。

揚舟体験は平成26年度には1,300人を超える利用者を数え、竿を持つ岡部さんと一緒に記念写真を撮る観光客も多いそうだ。



〈やりがい・楽しみ〉

「体調管理をしていれば、シルバー世代でも船頭として活躍できます。舟を漕ぎ、お客さまと接する時には、いつも通りの自分そのままに対応することにしています。お客さまから『良かったよ』とか、『違う季節にまた来るね』と声をかけてもらえると非常にうれしいですね」と岡部さん。自分たちの郷土を褒めてもらうことは誇らしく、気持ちの良い自然の中で適度に身体を動かすことも爽快だ。さまざまな土地から訪れるお客さまとの交流も、船頭をする楽しさの一つになっている。

基礎データ

☎0276-70-4040

板倉町産業振興課産業政策係

☎土日祝:0276-82-1111(代表)

板倉町役場

事業開始時期/平成13年

主な活動/揚舟による水郷めぐり、観光案内事業

人数・年齢/7名 20～70代後半

実施主体/板倉町